

適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

【適正利用エコツーリズム WG に関する特記事項】

本ワーキンググループは、知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略にもとづき、地域連絡会議と合同で適正利用エコツーリズム検討委員会を 2010 年から開催している。世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能な推進を通じて、良質な自然体験と知床の価値を提供しながら保全を進めている。検討会議の重要な役割は、知床エコツーリズム戦略に基づく提案制度による提案の検討とモニタリング、保全と利用に関する課題を、管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場の提供である。

1. 知床エコツーリズム戦略の運用状況

提案され取組が進められている 3 件については以下のような状況である。また、過去の案件も含めた検討状況は別紙のとおりである。

① 赤岩地区昆布ツアー（提案者：羅臼町観光協会）

半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーと位置づけて試行している。平成 29 年度のツアー参加者は 0 人であった。今後も、平成 33 年度までの 5 年間で当該ツアーに対する地域内の合意形成や持続的な事業形態など、当該ツアーのあり方について検討を続ける。

② 外国人旅行者向け情報発信の強化（提案者：知床財団）

ルールを含めた知床の楽しみ方について、外国人に向けた情報発信の強化を目的とした各種事業を行った。平成 29 年度は利用施設最新情報ボード（知床情報玉手箱）の情報更新継続やサイネージ用ページの作成、「日刊ヒグマ情報」及び facebook によるヒグマ情報の公式的発信、日本語＋英語表記の登山道マップ販売、しれとこ森づくりの道「開拓小屋コース」の新設などを実施。平成 30 年度はこれまでの事業を継続するとともに、部会関係者による共同事業の検討を行う予定。

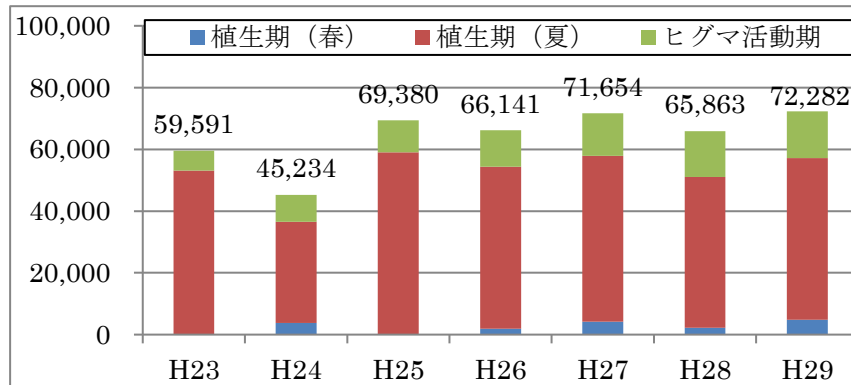
③ 厳冬期の知床五湖エコツアー事業（提案者：斜里町観光協会）

冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで冬期の知床五湖をまわるエコツアーを実施している。平成 26 年度から 28 年度までは網走建設管理部の試験除雪を行っていたが、平成 29 年度は自主除雪にて実施する。来年度以降については、除雪の方法や利用コントロールの体制なども含めて検討を進める。

2. 個別地域における取り組み状況

○知床五湖における利用調整地区制度の運用

引き続き、ヒグマ活動期及び植生保護期を適切に運用した。平成 29 年度の立入認定者数は、前年度比約 110%の 72,282 人となり、過去最多の認定者数であった。制度導入以降は 6 万人代後半で安定的に推移している。



○カムイワッカ地区におけるマイカー規制

平成 29 年は 8 月 1 日～25 日の計 25 日間でマイカー規制を実施した。今年のシルバーウィーク中はマイカー規制を実施しなかったが、数台の駐車待ちは発生したのみで、大きな混雑はなかった。平成 30 年も 8 月 1 日～25 日の 25 日間でマイカー規制を実施する。

○ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働

知床ウトロ海域環境保全協議会として、知床海鳥 WEEK や自然センターでの企画展等の各種イベントや海鳥のモニタリングを実施。海域観光の充実や収益の環境保全への還元、野生動物と人との適正な関係の周知等を目的として知床ウトロ海のハンドブックを発行し、平成 29 年度は約 3,700 冊を販売して売り上げが 111 万円となっている。

3. 主な検討事項等

平成 28 年度の検討会議における議論や利用に係る状況等を踏まえ、今後以下の点について対応を実施。

- ① 既存ルールの見直しを含めた議論・検討を推進するため、知床国立公園利用のあり方懇談会を平成 29 年度及び平成 30 年度に実施し、知床半島の利用に関する地元意見をまとめる。平成 29 年度は全 3 回（第 3 回は平成 30 年 3 月 1 日に実施予定）実施し、斜里町側と羅臼町側それぞれから利用のあり方を提示があり、議論を進めている。
- ② 地域外の資源利用者からも提案がなされるよう、地域外の観光専門家の参加を検討することが平成 29 年度の第 1 回の会議で合意された。第 2 回検討会議では、北見運輸支局が参加し、今後は、運輸支局（札幌）と連携し、民間関係者の検討会議参加を検討する予定。

4. H30 年度適正利用・エコツーリズム検討会議の開催予定

提案の提出状況等に応じ、適正利用・エコツーリズム検討会議を 2 回開催予定である。